2021/9/19-2
（オマケの英語教室 Wanted, English speakers!! ）書庫版

今日はちょっと「イジワルの虫」が。
「あの人は英語が出来る」
と言った場合の評価者、評定者は誰なのか？
観察してみると、学校や塾の先生又は TOEIC や TOEFL、英検の採点者さん達であろうという推測が成り立ちます。
判断基準は点数。
次に巷では誰が評価者、評定者なのか？
是も観察の結果、巷の「噂雀さん達」である事が推察されます。
例えば
「あの人 TOEFL ほぼ満点で、●●物産に一発で入ったって」
とか
「あいつ、英単語 3000 知ってるんだって。外資系も OK だよな」
とか、要するにこれまた基準は数字で、しかも
「英語で如何に得をしたか」
がメインテーマのようです。
ところが持ち上げられた「ご当人」が実際に話したりしゃべったりしている現場に居合わせた人は殆どいないのが大半の事例。
点数、数字、お得感それに強いて言えば「成績表」か「お免状」
こういう評価法を採用してその発想に縛られている限り、我が国が「多くの人が英語を話す国」になることはほぼ半永久的に不可能でしょう。
一方欧米系在日外国人さんが上述の「方々」に対してこんなことを言っているのを耳にしたことがあります。
「お行儀はいい。文法もあっている。でも、何故か疲れる。いつまで経っても打ち解けないから」
とか

「余りに捻りすぎて（tricky)、元々何の話だったか分からなくなることがしばしばある」
更には
「何も始めないうちからもう終わっている。What, what, what?」
等。
そして最後に
「一体何処に行けば普通の English speaker（英語を話す人）に会えるんだろう。日本語は無理。せめて英語くらいは。不便で仕方ないよな。
Wanted, English speakers!!
Reward, my hug
That`s all.」
（求む、英語を話す人
　報奨金、私のハグ
　そんだけ）